

YSR50

1986年 / 市販車

1960年代に発売されたホンダのモンキーのようなミニバイクは、1970年代のレジャーバイクブームによって、各社から多種多様のモデルが発表された。

一方、フルカウルのレーサーレプリカブームは、1980年代に250cc クラスが発端となり、2ストローク、4ストロークを問わず、各社が次々とニューモデルを開発。

その勢いに乗り、当時のトップカテゴリーレースに参加していたファクトリーレーサー YZR500をデフォルメ・縮小したスタイルで、レースファンの遊び心をくすぐるモデルとして発表された。空冷単気筒2ストローク49cc のエンジンは7ps 8,800r/min を発揮。リターン式5段変速機、フロントディスクブレーキなどの本格的なスポーツ走行も可能にするスペックを備え、当時人気を集めていたミニバイクレースの定番モデルとなった。

シリアスさと誇張感を絶妙に表現したザインにより、ファクトリーレーサーのグラフィックが好評で、経年で様々なモデルが投入されることとなり、商品の魅力がグラフィックによって格段に向上することを証明している。



COMMUNICATION
P L A Z A